

## - 2 . アジア諸国の宇宙活動調査(韓国)

### Research on Asian Space Activities (KOREA)

|                 |   |
|-----------------|---|
| <b>キーワード</b>    | 宇宙開発、国際協力、ロケット、衛星、宇宙産業  |
| <b>Key Word</b> | space development, international cooperation, rocket, satellite, space industry |

#### 1. 調査の目的

1999 年に開催された第 3 回国連宇宙会議において、途上国の裨益にも配慮しつつ、地域的及び地球的規模の重大な問題を効果的に解決するために宇宙技術の利用を促進するなどして宇宙の平和利用を進める方策が提言（ウィーン宣言）された。我が国としてもウィーン宣言の実施に積極的に貢献すべく、そのフォローアップの一環として、特に新興宇宙開発国の多いアジア諸国との協力を焦点を当てた施策を講ずることが適当である。

そこで、今後、アジア諸国との円滑な国際宇宙協力を推進するため、アジア諸国に関する宇宙活動の実状を十分に把握し、我が国関係省庁・機関がアジア諸国との協力を実施する際に、外務省より適切な助言が行えるよう、アジア諸国の宇宙開発制度、実態を調査した。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1) 調査方法

国内外の最新文献、論文を収集・整理・分析するとともに、韓国における現地調査を実施した。

##### (2) 調査の内容

韓国はここ数年、欧州やロシア等との宇宙協力を促進しており、また、我が国に対しても宇宙航空研究開発機構の施設見学や国際宇宙ステーション計画における共同活動（日本実験棟利用、宇宙飛行士訓練等）の可能性の打診等を行ってきている。韓国との宇宙協力の可能性を検討するためにも、先方の実状を十分に把握する必要がある。そのため、韓国の宇宙活動に係わる以下の点について調査を行った。

- 韓国の宇宙活動（歴史、現状、将来の展望等）
- 韓国の宇宙開発体制（宇宙関連企業体、宇宙関連国家機関等の関係等）
- 韓国のアジアにおける国際宇宙協力の基本方針並びに現在及び今後の案件

##### 韓国の宇宙活動

韓国が 2000 年 12 月に発表した「韓国宇宙開発計画」の建設や 20015 年までに合計 20 機の衛星が盛り込まれた。現在はこの 2000 年の計画はリアサット（通信衛星）、キットサット（実用衛星）シリーズを有するほか、KSR（観測ロケット）も持っている。長期計画では具体的な目標として 2015 年までに衛星 5 基の計 20 基（改定前の計画では合計 19 基）を打ち上げるほか、2015 年に 1.5 トン級の低軌道実用衛星を打ち上げるための推進戦略として、宇宙技術開発の総推進委員会傘下の宇宙開発専門委員



(KARI)の育成、民間企業の宇宙事業への参画拡大などに取り組むとしている。この中で、長期的には米国の航空宇宙局(NASA)や日本の宇宙開発事業団(現宇宙航空研究開発機構)等のような国家宇宙開発総括研究機関の設立も詠われている。また、2005年を目前に韓国独自の宇宙センター(射場)を全羅南道高興郡の外羅老島に建設する計画である(図1参照)。宇宙センターが完成すると打上げ基地を所有する世界で13番目の国となる。

#### 国際協力

国際協力の基本的な考え方として「国際協力事業への参加を通じた核心技術の確保」を掲げ、宇宙プログラム国際協力、地域別国際協力、の両面から技術習得に重点を置いた国際協力を推進するとしている。韓国政府は、国際宇宙ステーションへの韓国人宇宙飛行士の搭乗に意欲を示しており、飛行士の訓練をロシアで実施する計画を明らかにしている。具体的

図1 韓国の宇宙センターのイメージ図

な搭乗実施については米国ほかパートナー国との調整もあり未定である。

その他、中韓関係(中国のアジア宇宙機関設立イニシアティブ等をめぐる韓国の対応など)、米韓関係、対欧州・ロシア関係などについて調査分析を行った。

#### 今後の日韓宇宙協力の在り方

我が国との協力については、平成14年10月、東京において日韓科学技術協力協定に基づき第12回日韓科学技術協力委員会が開催され、宇宙技術や地球科学・環境などを含む幅広い分野で協力を促進していくことが確認されている。具体的には、「アジア太平洋宇宙機関会議」の第9回会合(APRSAR-9)が2003年3月に初めて韓国(大田)で開催されたほか、地球観測の分野で過去3回開催されている「日韓地球観測ワークショップ」などの協力プログラムが進められている。最近では、国際宇宙ステーションの日本モジュール「きぼう」利用で協力可能性が模索されるなど、新たな動きも見られる。しかし、日韓の宇宙分野におけるこれまでの協力関係は限定的なものであり、本格的な協力関係の構築に向けた道筋も描かれては入らない。韓国の宇宙開発計画を長期的な観点から見て、今後10年、20年という長期的な観点から東アジアの国際的な枠組みを視野に入れて協力関係を検討すべきである。宇宙という未来志向的視点から協力可能分野を探索し、実施していくことは、日韓関係の裾野を拡大し次世代の新しい日韓関係の構築にも貢献するものである。しかしながら経済面における協調と競争、安全保障面における協力と紛争防止などの観点から、何を協力し、何を協力してはいけないかという弁別を持ち、宇宙協力の全体的な枠組み構築と、個別領域、個別課題への対応を図る必要がある。